明石通信

発行責任者　明石洋子
2006年１月10日発行

あけましておめでとうございます。

本年も、皆様及びご家族にとって、素晴らしい年になりますように祈念申し上げます。

＊私のメールアドレスが４月１日から変更になります　brightstone@rainbow.dti.ne.jp

皆様には日ごろからご支援ご協力をいただき、心より感謝いたしております。

本年もよろしくお願い申し上げます。早々に年賀状をいただきながら、ご挨拶が遅れましたことを深くお詫び申し上げます。昨年 12 月は、寝る間もないくらい超多忙な日々をすごし、年賀状を兼ねた新年の「明石通信］（例年は１月１日号）を出すことができませんでした。

昨年 12 月は、当法人「あおぞら共生会」主催で、10 月から毎月開催しております「発達障害支援セミナー」の３回目で大本命の「福島豊先生講演会&赤塚光子先生コーディネートのシンポジューム」が 10 日に川崎駅ビルＢＥ８階「カメリアホール」で、翌 11 日は、東京「学士会館」で私の「本の完結を祝う会」（６名の発起人主催）が、次いで 24 日は次男政嗣と美里さんの結婚式と、どれも参加者との連絡や調整、案内や出欠の確認、プログラムや名簿の作成等々、関係者との念入りな打ち合わせや準備が必要で、また新しく構築される人間関係への配慮も欠かせない大切なイベントが続きました。

学士会館会場

その間にも、３日には川崎市麻生区ＰＴＡ協議会主催・障害者週間講演会「自閉症の理解と対応」、６ 日には名古屋市主催・人権週間記念シンポジューム「発達障害者の理解と支援」、１７日には大阪堺市民自主講座「みんなで、発達障害を啓発しよう（いっしょに生きる、楽しく生きる～支えあう地域を目指して）」、そして 10 日のシンポジストなど、引き受けておりましたので、気を抜くことができない日々を送りました。

18 日は、徹之とクリスマスムードを満喫したく、大阪の「ユニバーサルスタジオジャパン」をちょっと覗いてリフレッシュしてきました。

どの会も主催者・参加者に喜ばれて、私はダウンもせず無事に役目を全うできほっとしております。一世一代の記念に残る行事にもかかわらず、時間がとれずに洋服を新調することも美容院に行くこともできず、しかも睡眠不足のまま（やつれて?）臨みましたが、どの会も出席された皆様が盛り立ててくださって、本当に有意義な思い出深い会にしていただきました。心から感謝いたしております。

ご来場の皆様、また祝電や励ましのメッセージや、お花やお酒などお贈り下さいました皆様、本当にありがとうございました。忙しさにかまけて、十分なお礼も申し上げないままで申し訳なく思っております。この紙面を借りまして、皆様に厚く御礼申し上げます。

さて今年は戌年、５回目の年女となります。仕事始めの日朝礼で、年男と年女は「今年の抱負」を言うことになり、私は「仕事と家庭の２足どころか、３足も４足ものわらじを履いて、しかも全速力で走ってきた感があるので、今年はゆっくりと周りの景色を楽しむ生き方を」と宣言しました。

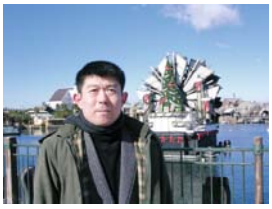
若い元気な抱負を述べる２４歳や３６歳の犬年の皆さんの中で、私は「入社して２０年、もう今年還暦を迎えるのだなぁ」と、感慨深く思いました。

年頭に当たり、公（スズケン）私（福祉）共に、「変化を拒み、前例の踏襲を固持して、若い方々の足を引っ張るような老害的存在には決してならないように」と、自らを戒めております。物事に感動できる感性と、前例のないようなことも発想できる想像力と行動に移す力は、いつまでも育み持ち続けたいと思っています（なくなったときは完全にリタイアするしかありませんね）。

平成 16 年の統計では平均寿命が、男性 78.64 歳、女性 85.59 歳。「もう２５年しかない」と思うのか、「まだ２５年もある」と思うのか・・・プラス思考しましょう！

私の家系は長寿のようで、父は当時の男性の平均寿命（76 歳）を 10 歳以上も上回り、米寿（88 歳）のお祝いをした後平成９年に亡くなりましたが、福岡に一人住まいの母は、昨年 10 月 30 日の誕生日に親戚皆集まって米寿を祝いました。100 歳までは大丈夫そう。私も少し活動をコントロールして、元気で長生きしたいものです。

徹之に障害があるとわかったときからずっと、「私は、徹之より 1 日だけ長く生きたい」



なんて思っていましたが（「自分が死ぬとき徹之も」とは決して思ってはいません！）、今は「親の懐から飛び出し、徹之は徹之の人生を」と願っています。ただ親亡き後は、（親の安心のための）入所施設でない、「地域であたりまえに生きるという選択肢を用意したい」と切に願っています。真のノーマライゼーションの実現、すなわち徹之が自分らしさを失わないで、一生涯「地域の中で」幸せに暮らせるために、「今、親として何をしなければならないか」を常に考えて行動したいと思っています。

そのためには、多様化したニーズを持つ当事者たちから常に学び続け、過去の経験にとらわれない新しい発想、新しいやり方に果敢に挑戦していきたいものです。[今までそうしてきたから] [今までそんなことやったことないから] を口実にするのでなく、[今までやったことがないけど・・・やってみよう] を　行動する理由にしたいものです。

人は年をとるほど、また組織は古くなるほど、保身や保守的に走るようで、変化に抵抗を示すことが多く、実際、年々加速されてくる福祉情勢の変化の

スピードについていけずに四苦八苦している現状ですが、こういうときこそ「福祉の本質」をきちんと見極める目を育てたいものです。それには、当事者や若い親達の声に、真摯に耳を傾けたいものです。[地域に生きる] 前提は決して揺ぐことはありませんが、多様な価値観・多様なニーズがある今、運動する身にとってこの調整がなかなか難しいと最近痛切に悩んでいます。

特に今回（１２月１０日）、当法人主催の「福島豊先生講演会&シンポジューム」の開催は予想外の苦労を伴い、多くのことを学びました。「地域福祉（居宅支援の充実）」を目指している当法人が活躍することは、入所施設や大型の通所施設建設推進の川崎の「施設福祉」派にとっては煙たい存在のようであり、また一方の「地域に生きる」を運動している仲間からは、［自立支援法；反対］と同じ視点で［発達障害者支援法：反対］と言われ、協力を得ることが難しかったのです。

「発達障害者支援法」と［地域に生きる］は相反していないと思うのですが・・・。

「発達障害者支援法」は福祉法としては画期的な、乳幼児期から成人期まで「生涯にわたる一貫した支援」を理念とし、さらに「啓発」として「国民は発達障害者への理解を深め、社会参加に協力するよう努める」として国や自治体の啓発活動を責務として定めています。

今まで「あおぞら」が理念として、経済基盤が無い中でもがんばってきた活動、すなわち［入所施設で無く、地域に生きるための支援を］と［本人を治すための訓練や治療でなく、障害があるままで、正しい理解と適切な支援を地域の方からうけて、地域に生きる］を、この法律は認めているのではないでしょうか？　しっかり学び、知識を深めて運動の方向性を誤らないようにしたいと思います。

この法律を正しく理解するために、議員立法である［発達障害者支援法］の立案者の福島先生から直に、「設立の経過と将来の展望」についてお話していただきたいと考え、６月に企画しお願いしましたら、快く引き受けてくださいました。

ところが、１２月７日（３日前）までの出席希望者はなんとたったの３８名なのです。前日の名古屋の「発達障害者の理解と支援」のシンポジュームは、ニキリンコさんと坂井聡先生と私の３人でしたが、５００名の市民の方が来られ、開館前に行列ができるほど、市民の方は熱心でした。

川崎では、市民どころか発達障害児者の親にもこの法律が知られていないようです（まったく啓発がなされていない?）。

自閉症児の親でありこの法律制定にご尽力なされた福島豊先生の講演と、それを受けて、立教大学教授赤塚光子先生（川崎の福祉の委員長等歴任）がコーディネーターで、「川崎のこれからの地域福祉を論じる」シンポジュームですのに。講演会の趣旨を説明しシンポジストを依頼した行政も、どこにも案内して下さってないとは、私は悲しくなりました。

私は、開催日２日前（８日）に休暇をとって、健康福祉局長さん初め社会福祉事業団や議員会館、新聞社に精力的に挨拶回りしました。市長さんもご挨拶にきてくださることになり、市会議員さんも多数（飯塚正良議員さんは先約をキャンセルされて）出席の返事を下さって「発達障害支援については何も話す内容がない」とシンポジストを渋られた障害保健福祉部も急遽シンポジュームに登壇していただけることになり、とてもうれしく思いました。

福島先生の、非常にわかりやすく整理された的確な「発達障害支援法」の解説は見事で、ご自分のお子様の幸せを願う熱い思いが胸に響き、「一生涯地域で一貫した支援をする」には何が必要か、行政や親や市民がどのように考え実践すればいいかを示していただいたように思えます。

シンポジストとして来てくださった療育福祉課長さんは、福島先生の話や他のシンポジストの親や会場の皆様の話を誠実に聞いて下さり、まだ未整備の現状を話さいましたので、これからの川崎の福祉計画にプラスの影響を与えてくださることと期待しています。この法律は、「理念・啓発法」の意味合いが強く、具体的施策については語っていません。「生涯一貫した支援」を保障するには［つなぐ］役が必要で、この法律では「発達障害者支援センターを都道府県及び政令指定都市に作る」義務を言っています。しかし自治体が行わなかったからといって、罰則が無いので、各自治体の（施策を企画する担当者の）理解と熱意次第になります。

この法律をどのように運用するか、［地域に生きる］運動の追い風にするかどうかは私達の行動しだいとなるのです。大型の入所施設や通所施設つくりを進めている川崎市が、真のノーマライゼーションの実現（地域重視）に向かいますように。「地域」とは住所が地域にあることでなく、地域の人との日常のかかわり、地域の方が名前を持つ個々の人を隣人として認識しているかどうかだと思います。

徹之さん発言

シンポジストとして参加した徹之は、［親亡き後も住み慣れた地域で生きたい］と訴え、私は「川崎市に、一生涯一貫して地域に生きるを支援する発達障害支援センターを作ろう。市民に発達障害の理解と支援の啓発をしよう。親はパートナーとしてできることは最大限協力します」という内容のパワーポイントを作りお話しました。

この講演会をきっかけに川崎にも、市民参加の「発達障害者支援センター準備検討委員会」ができるといいなと思います。それも今までの「建物ありき」の形式だけのものでなく、親達当事者の意見も吸い上げ、本当のニーズを満たす支援ができる、実のあるものとなることを願っています。政令都市でまだできていないのは、川崎市だけですから、今から各自治体のいい例を参考にして、一番いいものができるかも知れませんね。赤塚先生の的確な「まとめ」で頭を整理することができ、また会場とのやり取りを交え、活発な議論を引き出されて、有意義なシンポジュームとなりました。

シンポジューム会場

岡村･飯塚川崎市議会議員

会場との意見交換では、議員さんが「発達障害者支援法の内容がよく理解できた。川崎の予算も自分達が中身をちゃんと理解しなくては］と言われました。特に、応援に駆けつけてくださった北海道や富山や名古屋のお父さんお母さん方が、地元での市民参加の「発達障害支援センター」設立の運動経過をお話くださったのは涙が出るほど嬉しく、とてもありがたく思いました。（同じ思いを共有する仲間は最高の財産！）。

さて、会場の参加者も、私が３日前に［たった３８人］とＳＯＳを発した、仙台や名古屋など遠方の友人達が、自分のホームページにこの講演会の案内を載せてくださって、それを見た方々が来てくださったようで、おかげで空席がまったく目立たないくらい人が集まりました（感謝！）。

志賀さん・赤塚先生・山内衆議院議員

市長さんの［市民との連携での地域福祉の充実を］のご挨拶も当会の趣旨を応援していただいたようで素晴らしく、山本保参議院議員の乾杯で始まった懇親会までも話が弾んで・・・大成功でした（ほっ！）。

「この話を今回、この会場の人だけのものにするには惜しい多くの親や市民にも聞かせたい」となり、半年後、このメンバーで［パート２］をすることが当日会場で決まりました。福島先生、赤塚先生、そして行政も含めて５人のシンポジストの皆様、半年後もどうぞよろしくお願いいたします。早速テープを起こして「報告集」を作成する予定です。

それにしても、私を講師として依頼してくださる日本各地の自治体、最近では名古屋市や堺市ですが、市独自または市民団体主催であっても、会場費や講師料や案内チラシポスター等経費は行政が負担しています。

［発達障害支援法］には「市民への啓発」が行政に義務付けられています。でも当法人主催のこれらの講演会は、［発達障害を理解し支援してほしい］と願う親からの寄付でやっと開催しています。あおぞらの事業もそうですが、［わが子の生きる場を、施設でなく地域で］と願う親は［汗も流そう、お金も出そう］といった運動をいつまでしなければならないのでしょう。「施設発地域支援」（なぜか施設は予算が優遇）に比べ「地域発地域支援」はつぶれそうです。

でも、苦労するから充実感があるので、前日までの苦労（疲れ）はあっという間に達成感（喜び）に変わり、「半年後のパート２に向け、川崎がこれから面白くなる（変わる）」予感がしました。でも講演する方が気楽でいいなぁ。これから日本各地に講演に行っても、主催者の苦労がよくわかるようになります。感謝しなくちゃ！ありがとう！！

会場にて内多勝康アナウンサー

さて次は、翌日の［明石洋子さんの本の完結をお祝いする会］の話に移ります。1999 年のＮＨＫ新日本探訪［笑顔で街に暮らす］の取材以来親交を暖めている、ＮＨＫ「生活ほっとモーニング」のキャスター　内多勝康さんが、１回目（2002 年）の出版記念会

に続いて今回も司会を引き受けてくださいました（感謝！）。温かいハートと素敵なお声での進行もスムースで、楽しい雰囲気の中あっという間の３時間でした。全国から（北は釧路札幌から南は佐賀まで）、本やテレビや講演会を通じて知りあえた読者や支援関係者が 136 名も来てくださって、ありがたく光栄に思いました。

受付第一号は佐々木正美先生！（徹之の５歳から２５歳までの主治医）、そして一番にご挨拶、沢山の身に余るあたたかいお言葉をいただきました。現在の主治医の内山登紀夫先生が、会の最後に発起人を代表して皆様にお礼のご挨拶をされ、真ん中に氏田照子さんがご自身主催のイベントを途中抜け出してきてくださって友人代表でご挨拶をして下さるなど、その他自閉症圏ではお名前が知られた方がいっぱい来てくださって、とても贅沢な会でした。

佐々木正美先生と

若い親御さん達のリレートークも圧巻でした。北は釧路の佐藤みちるさんからスタートして、南は岡山の金子啓子さんまで、日本各地で活躍されている姿に、私こそエネルギーを頂き、疲れも吹き飛びました。「第３巻で完結しないで、第４巻も続いて書いてほしい」との皆様のご要望でしたが、次は、全国各地でがんばっている若いお父さんお母さんが著者ですね（私は編者かなぁ）。うれしいことに、職場の竹田支店長さん初めスズケンの上司や同僚（退職された方も）、さらに得意先の薬剤師の先生や薬事日報社等薬業界からも多くの方が来てくださいました。薬剤師の同僚が受付を、元副社長の秋山孝二さんが乾杯の音頭を、加藤常務が福祉の世界以外の職場での私の顔をお話くださって、私は本業でも支えられていることを実感し、大変うれしく思いました。この会で、遠距離交流・異文化交流の新しいお付き合いが始まり、人とのネットワークがさらに広がりました。

内山先生ご挨拶

暮れの忙しい時期でしたから、「行きたいけれど行けない」とご連絡があった方々から、お花やメッセージをたくさん頂きありがとうございました。何人かのメッセージは当日のパンフレットに載せさせていただきました。また山田宏杉並区長さんや阿部志郎神奈川県立保健福祉大学学長先生やＪＴＦジーエス（株）社長長谷川泰弘さん（亡くなられた板垣百合子さんのご主人）ほか多数の祝電もいただきました。皆様ありがとうございます。

内多アナとスズケンの仲間たち

発起人になってくださった方、企画運営してくださったぶどう社さん、本当にありがとうございました。心より感謝いたしております。参加された方のメールの中から、また「小さなうつわの会」の会報記事を載せ、当日の様子の報告とさせていただきます。（３名の方）事後承諾になりますが、いいですよね）

こんばんは。昨日の「本の完結をお祝いする会」に出席しました金子と申します。

４ 歳の自閉症児の親で読者です。 ご案内を封書でいただいた時、「この私が参加して良いの？？」という思いでした。 が、もう一度、明石親子に会いたく、そして明石さんのパワーで元気になった人々の話しが聞きたく参加させていただきました。 友人も誘わず、たった一人で参加しましたが、充実した時間を過ごせ嬉しく思っています。本当にありがとうございました。

改めて明石さんの魅力を感じました。 どの方のスピーチも良かったです。 カイパパさんの「恩送り」には、同感で、明石さんに対する恩は、後輩たちへつなぐことだと思いました。また、読者の方の、思わず涙で声に詰まるスピーチは、まさに私と同じ立場だっただけに、一緒に涙してしまいました。その時、洋子さんはすぐに寄り添いましたよね。それがまたさらに感動でした。 昨日のことは、「すごい！」の一言なのですが、自分にも何かできるはずと自分を励ましました。明石さんのようにと思うと、ハードルが高すぎるので、私なりにできるだけのことをと思っています。そして、帰りの神保町駅で政嗣さんご夫婦にお会いしました。思わず「政嗣さんですね。明石ファミリーには元気をたくさんもらって感謝しています」と声を掛けさせていただきました。 朝霞の講演会で、徹之さんが、政嗣さんの奥様の頬に触れたとき「私、お兄さんに気に入ってもらえたみたい」とおっしゃったコメントが、とても印象的で素敵だったので、お会いしてみたなぁと思っていたのですが、お会いして納得。優しい素敵な女性でした。政嗣さんも優しいきれいな目をしてらっしゃって、とても素敵なカップルでした。新婚さんの幸せを少し分けさせてもらいこちらは一人なのに、思わずニヤニヤしてしまいました。と、長くなりましたが、昨日の感動を伝えたく、メールさせていただきました。お忙しい方なので、読むのも大変かと思います。お返事は不要です。またの機会に是非お会いできたらと思っています。 ありがとうございました。

［明石洋子さんの本の完結をお祝いする会］に出席して

2005 年 12 月 11 日(日) 午後２時より、東京一ツ橋にある学士会館で、明石洋子さんの著書［自閉症の息子と共に］シリーズの［ありのままの子育て］［自立への子育て］［お仕事がんばります］の全３巻の完結のお祝いと、明石徹之さんの３３歳のお誕生をお祝いする会がありました。

外は曇り日の肌寒い風が吹いていましたが、会場には約 140 人の方々が集まられました。すでに明石さんと心に深いお付き合いのあった方々です。ＮＨＫの「生活ほっとモーニング」のキャスターの内多勝康さんの笑顔とスムースな言葉によるさすがプロの司会は、暖かく皆を家族のような雰囲気にしてくださいました。徹之さんの小学校時代の先生も佐賀からお越しになり、ご挨拶をされました。明石さんの本に出ておられるので、初めてお目にかかっても懐かしささえ感じるのでした。「列島縦断ではないけれど」という司会者の紹介で、北は北海道から明石さんと知り合われた方々のスピーチは、それぞれに感動を呼ぶお話でした。

明石洋子さん徹之さんそしてご家族、周りのサポーターの皆さん、こんな素敵な人間関係が生まれると言うことは、さらに日本列島全体にもっともっと広がっていけると感じさせていただけた会でした。日本はきっと素晴らしい国になると、つくづく思いました。こんな素敵な方々にお会いできただけでも幸せと思う日でした。

小さなうつわの会（会報及びホームページ）より　　（五十鈴記）

千葉県の竹蓋です。

11 日のパーティには「コスモスの花」青山理事長ともどもお招きを賜り、まことにありがとうございました。招待者名簿をみながら二人で「本当に私たち呼ばれていいの？」と口に出すほどの皆様が集い、夢のような世界でした。早め会場についてしまい（ロビーでちょうどトイレ確認をしようとしていた徹之さんをお見かけしました）いすに座っていたら、隣に腰を降ろした方がなんと園田先生でいらっしゃいました。

その場に居られる方がすべて「自閉症への思い」で共通のものがあるため、誰とでも話し込むようになってしまい、あっという間に時間が過ぎてしまいました。（僕は、なんか脳天気なスピーチをやってしまいした。恥ずかしいけどぶっつけ本番にしてはよくしゃべれたと思います。）「目が合ったら通信を渡す、と言うのが明石さんの教え」なんていいながら、これは、という親御さんに「伸一郎通信」を渡しました。 このパーティを一生の思い出として、これからも夫婦兄弟地域の仲間と共に歩み続けます。明石ファミリーのご健康と繁栄（徹之さんの結婚成就）を心からお祈り申し上げます。

新年の年賀状に、「カイパパさん」から［１２月の《明石洋子ウィーク》のおかげで、元気100 倍になりました。今年もどうぞよろしくお願いします］と書かれていましたが、私こそ斬新な発想と新しい運動方法を教えていただき、迷いが吹っ切れ元気をいっぱいいただきました。

「明石洋子ウィーク」とは、カイパパさんが一週間に３回も私に会ったからでしょうか。

１２月６日の名古屋でのシンポジュームで２年ぶりにお会いし、その翌日私が発した［ＳＯＳ］で、１０日の川崎の講演会に応援に来てくださって「発達障害者支援センターつくり」の名古屋市への働きかけ等とても貴重なお話をしてくださり、そして１１日の［祝う会］での［恩送り］のスピーチ。名古屋の若いお父さん達は徹之と年がそう違わない方ばかりで、私にとっては息子たちのよう。開君も隆太郎君も孫みたいですね。開君や隆太郎君が大人になったときには皆が「地域の中で支援を受けながらあたりまえに暮らす」ことができる社会になっていますように、一緒にがんばりましょう。

カイパパさん

さて、最後に、わが家の「ハッピーニュース」を報告。学生時代から７年間交際してゴールインした政嗣と美里さんの結婚式がクリスマスイブの 24 日にありました。徹之も白いネクタイでダブルの礼服を来て、教会の結婚式に列席しました。最前列で大きな声で賛美歌を歌っていました。披露宴では大好きなお酒を飲みすぎて、ちょっと酔ってしまったようで、最後にクリスマスツリーの前で撮った写真は目が眠っていましたね（花婿花嫁さんと並んで撮った写真はこれのみ、残念！）。

政嗣たちは、昨年７月７日に入籍をして三鷹に住んでいます。今は、月１回くらいしか会えなくなって、寂しいかぎりですが、元日には挨拶に来てくれて、とても幸せそうで、私は美里さんにパソコン操作を教えてもらい、強力な支援者が家族に増えて、感謝です。素敵なかわいい娘ができたのですから寂しいなんていったら罰が当たりますね。これからの人生、二人で協力し合って幸せな日々を送ってほしいと思います。

徹之にとっては弟の結婚がさらに刺激になったようで

「明石徹之は結婚がんばります」

「2006 年６月に川崎日航ホテルで徹之は結婚します。

ジューンブライドです」

を連発しています。さてさて相手は？　６月とは言いませんが、本気で、徹之のお嫁さんになってくださる方がいらっしゃいましたら、正式にお見合いしましょう。どうぞよろしくお願いいたします。

さて昨年の大きなニュースとしては、第３巻の［お仕事がんばります］の上梓と、ＮＨＫ［生活ほっとモーニング］の生出演がありますが、［明石通信］（８月７日号）に「発達障害者支援法」とあおぞら共生会の取り組み、第３巻の発行、ＮＨＫの取材風景、自閉症協会奈良県支部総会や日本自閉症協会九州大会、朝霞市、船橋市、富山市、三重県等の講演会の話を書いています。

この８月７日号を地域に配っている映像が８月 23 日にＮＨＫで放送されました。この明石通信（８月７日号）がお手元に届いていない方で必要な方がいらっしゃいましたら、返信用の封筒に宛名を書いて（90 円切手も貼ってね）ご連絡ください。追ってお送りします。

生活ほっとモーニングスタジオにて

［生活ほっとモーニング］の話は、法人の会報［あおぞら］の第８号（17 年 10 月号）に書いています。これは皆様のお手元に届いていますね。

では、今年も皆様の地域に講演に行く事もあるかと思いますので、その時にはまたお目にかかりましょう。

４月からは、「障害者自立支援法」がスタートです。まだわからない事だらけ　で、小規模作業所など今後どうなるのか、不安いっぱいです。思えば、平成１２年の「社会福祉基礎構造改革」が言われ、50 年ぶりに福祉制度が大変革、「措置から契約へ」「保護される権利から参加する権利へ」「施設から地域へ」となることを知った時は、今まで［地域、地域］と言い続けてきた甲斐があったと喜びました。

当初は、「地域移行」の理念が「支援費」と言うお金の話になったので反対も多かった「支援費制度」でしたが、おかげで赤字続きだった「サポートセンター」もやっと黒字になり、スタッフも増え、念願の「地域生活支援システム＝地域生活必須の３点セットの充実ができる」と嬉しく思いました。

やっと、親亡き後も入所施設を選択しないですむ生き方をわが子にはさせることができる

と思えたのです。

しかし、当初より予算措置がされなかった「支援費制度」は、崇高な理念にもかかわらず、財政的破綻をきたし、無責任な結末を迎えようとしています。

川崎市は義務的経費の施設支援費には第１支援費、第２支援費と、独自に予算を上乗せし、裁量的経費の居宅支援費であるサポートセンター（ホームヘルプ等）や作業所、グループホームには、単価や予算は削られる一方の現状です。（サポートセンターは１７年度前半でもう300 万円以上の赤字、さらに現在毎月３２万円の赤字が生じています）。

それでも［いつか地域移行の時代が来る］とがんばっていますが、川崎市の流れは運営の安定のため（？）施設重視になる（さらに 19 年には大型の入所施設や通所施設を作る？）のでしょうか。

入所施設は「日中活動の場、暮らしの場、24 時間 365 日のサポート」の３点セットが完結していて、建物は目に見えるので、高齢になった親の会の役員の方々にとっては安心なのでしょうか。本人達は管理されるより、社会参加を望んでいるのですが・・・。

若い親御さん達は、地域に安心できるサービスがあれば、入所施設は選択しないでしょう。

さて「自立支援法」で川崎市はどのような流れになるのでしょうか？議員さんと一緒に、福祉予算の使い方をきちんと見て行きたいと思っています。

今では、「変化はチャンス」と思うしかないようです。

本年もどうぞよろしくご指導後支援のほどお願い申し上げます。

「明石通信」「あおぞら」継続購読希望の方がいらっしゃいましたら、是非　社会福祉法人　あおぞら共生会の賛助会員にお名前登録をお願いいたします。機関紙「あおぞら」編集後記に賛助会のご案内を掲載しておりますのでご参照いただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

あおぞら共生会　事務局　大　屋